企業に未来基準の元気を！

ADVANTAGE Risk Management Group

2017年10月19日
株式会社 アドバンテッジ リスク マネジメント
代表取締役社長 鳥越 慎二
（東証第二部 コード8769）

立教大学とACTに関する共同研究を実施

～勤労者の心理的柔軟性とメンタルヘルス・生産性の相関を研究～

株式会社アドバンテッジ リスク マネジメント（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：鳥越 慎二、以下「当社」）は、学校法人立教学院（東京都豊島区、理事長：神谷 昭男）との共同研究契約を締結し、同法人の設置する立教大学現代心理学部心理学科松永美希准教授とともに、職場におけるアクセプタンス＆コミットメント・セラピー（以下「ACT」）の研究を行います。

ACT とは行動分析学に基づいた認知行動療法の一つです。「いま、この瞬間」の気づきを積極的に行い（アクセプタンス）、自分が大事にしたいことや実現したいことに向けて必要な行動を増やしていくこと（コミットメント）を目的とした「第 3 世代の認知行動療法」とも呼ばれるアプローチ方法で、最新の研究領域として注目され、近年では欧米を中心に、産業領域においてもさまざまな研究と実践が行われつつあります。昨今欧米の有名 IT 企業でも取り入れられ、ストレス軽減法として注目されている「マインドフルネス」もACTを構成する重要な要素です。

このたび当社は、ACT がストレス軽減や生産性向上など仕事のパフォーマンス向上に繋がる有用なアプローチであると捉え、立教大学現代心理学部心理学科松永美希准教授と共同研究を行うはこびとなりました。

当研究は、仕事における心理的柔軟性（ACT における中核的な概念）を測定するための学術的な尺度「WAAQ」を用いて、仕事における心理的柔軟性とメンタルヘルスおよびパフォーマンスとの関連について、性別や年齢、業種など属性別の傾向を明らかにすることを目的としています。

将来的には当研究で得られた知見を、組織におけるストレス軽減や生産性向上のための心理学的な技法を用いた各種施策の効果検証に活用することを想定しています。

当社は今後も学術研究を積極的に行い、研究で得られた知見を新商品開発やサービスの改善に活かしてまいります。

■共同研究者：立教大学現代心理学部心理学科 松永美希准教授の研究テーマについて

心の健康の維持・増進について認知行動療法の立場から研究を進めています。主には、抑うつや不安のメカニズムに関する研究、心理的ストレスに関する研究、ACT を含む認知行動療法の効果に関する研究などです。勤労者に関する研究としては、新任教師におけるストレス（リアリティ・ショック）のメカニズムの解明とその支援方法としての認知行動療法の活用や、中小企業経営者のストレスマネイジメントに関する調査研究などを行っています。

▼研究者プロフィール等
http://mikim.rikkyo.ac.jp/

【お問い合わせ先】
株式会社 アドバンテッジ リスク マネジメント
経営管理部 ： 小林 幸子
http://www.armg.jp
TEL：03-5794-3890